

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【校 訓】 「自立・規範・明朗」

【めざす学校像】

○生きる力を育む学校 ○地域に開かれ、信頼される学校 ○安全で、安心できる学校

【めざす生徒像】

○互いを思いやり、相手の立場を尊重する生徒 ○失敗を恐れず、果敢に挑戦する生徒 ○思考力・判断力・表現力を備えた生徒

2 中期的目標

1 公の中で個を磨く教育の推進

(1) 「知・徳・体」バランスのとれた教育の推進

- ア 普通科及び専門学科の特色を生かした確実な知識・技能の修得を図る。
- イ 互いを思いやり、相手の立場を尊重する生徒を育成する。
- ウ 各生徒の健康の増進に努め、体力の一層の向上を図る。

(2) キャリア教育の充実・発信

- ア 進路関係機関と適切に連携し、より正確な情報による進路実現を図る。
- イ 生徒・保護者の進路ニーズに応じたキャリア教育を推進する。
(※生徒向け学校教育自己診断における進路関連項目肯定的評価
R元 ; 79%、R2 ; 76%、R3 ; 81%、R4 ; 82%、R5 ; 83%、R6 ; 84%)

2 学校・保護者・同窓会・地域が一丸となった教育の推進

(1) みんなが安全で安心できる教育の推進

- ア 新型コロナウイルス感染症対策を含めた感染症対策の徹底を図ると共に、健康増進に向けて組織的・計画的に取り組む。
- イ 災害時等においては、地域やPTA・同窓会と一層連携・協力し、適切に対応できるよう、危機管理体制を構築する。

(2) 地域とつながる教育の推進

- ア 地域に根ざした学校づくりを進め、青年期の課題啓発・改善を図る。
- イ 地域に対して、手話の普及に努め、聴覚障がい者への理解とコミュニケーションを図る。

(3) 聴覚障がい教育の基幹校としてのセンター的機能の充実

- ア 地域連携支援室を中心に、地域支援や理解啓発活動の充実を図る。
- イ 学校紹介等の広報活動を継続的に行う。

3 教職員の資質・能力・専門性向上と働き方改革の推進

(1) ICT 機器(タブレット型端末・文字情報システム・電子黒板等)の活用スキルの向上

- ア 教職員の ICT スキル、個人情報保護を含めた情報モラル向上の一層の促進を図る。
- イ 「学校経営推進費」を活用した「いつでも VR」事業2年めにより、VR・AR教材開発・発信を促進する。

① 【生徒】学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」「授業の内容がわかりやすい」を前年度より5%上昇

② 【生徒】同診断「先生は、授業で ICT 機器を使うなど、教え方に工夫している」が95%

校内で利用率アンケートを実施し、全教員のうち50%が、VR教材を利用している。

授業力及び指導力育成の一層の充実

- ア 聴覚障がい教育における授業改善のあり方を研究し充実を図る。
- イ 外部人材等の有効な活用を一層促進する。
- ウ 教職員研修の一層の充実を図る。

(2) 働き方改革の一層の促進

- ア 校務の効率化を図り、働きやすい職場環境をつくり、教職員の健康管理体制を一層充実させる。
- イ 教職員の時間外勤務の縮減を継続的に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>1 回収率</p> <p>生徒 94.9% (56/59) 回収</p> <p>保護者 67.7% (49/59) 回収</p> <p>教員 98.3% (59/60) 回収</p> <p>2 満足度 () は R3・R2</p> <p>生徒 81.3% (80%・75%)</p> <p>保護者 93.1% (93%・91%)</p> <p>教員 86.8% (85%・84%)</p> <p>調査はA「そう思う」・B「どちらかといえばそう思う」・C「あまりあてはまらない」・D「まったくあてはまらない」から選択する方法で行い、AまたはBを選択した割合(%)を「満足度」として分析した。</p> <p>【生徒回答より】</p> <p>・「学校に行くのが楽しい」が11%上昇した。コロナ禍3年目となり、生徒と教員がお互いに感染対策をしながらの授業や行事を滞りなく進めることができたことも要因と考えられる。</p>	<p>対人関係や社会一般常識におけるマナーや知識について、在校中に身につけらるような指導について、挑戦し学び続ける意欲の涵養、教職員の専門性を持った授業力の向上などについての意見をいただいた。</p> <p>第1回学校運営協議会 令和4年6月2日 10:00~11:30</p> <p>・会社においても聴覚障がいのある方のもめ事が起きている。手話でのやり取りによる行き違いもある。健聴者が常識と思っていることでも抜けがある。互いの立場を思いやる事や自分から情報を取りに行こうとする姿勢も重要。そのあたり学校でも扱っていただければありがたい。</p> <p>・聴覚障がい者は白黒つけたものの言い方が多い。子どものころからそれに慣れてしまう。人間関係はあいまいなやり取りが相手への思いやりになっている。そのあたりも教えていく必要がある。</p>

・R4年度からの新規項目「学校では、授業や学校行事において、VRやAR活用に取り組んでいる。」は78.6%であった。これはR3年度から取り組んでいる学校経営推進費事業「いつでもVR」に関する質問項目で、学校経営計画では60%以上を目標としていたので、大きく上回る事ができた。特に取り組み頻度の高い情報コミュニケーション科生が77.4%、他の3学科生が80%の肯定的回答であったので、学科の偏りなく、学校全体の取組みとして進める事ができた。

【保護者回答】より

・「教員は、授業でICT機器（タブレット・ディスプレイ・電子黒板等）を活用するなど教え方に工夫をし、わかりやすい授業を行っている。」
「学習の評価は、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価が行われている。」
「学校全体に清掃が行き届いている」3項目はR3年度から引き続き100%となり、さらに新たに「学校は、保護者の要望や意見を尊重し、教育活動に取り組んでいる」「勤労観や職業観の育成をはじめ、進路指導（先輩の体験を聞く会、進路説明会、職場見学、職場体験、デュアルシステム、進路相談等）は適切である」「学校は、補聴器（人工内耳を含む）や聴力測定についての相談をていねいに行っている」「生徒の健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるよう配慮がなされている」の4項目が100%に上昇するという、高い評価を得られた。次年度以降も継続できるよう、心がけたい。

・「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている。」は12%下降した。多様化する生徒のニーズに、教員が十分に答えられていない結果と考えられるので、今後はしっかりと生徒の声を聞きながら、授業の改善に努めていく。

・「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」は18%上昇した。昨年度に大きく減少したのが、取り戻された。コロナ禍の生活に慣れ、感染対策をしながらの開催・参加ができるようになったためと考えられる。

【教職員回答より】

・「資質向上のため、他府県を含めた先進校での講演や事例研究への参加を促進している」が11%上昇した。全日本聾教育研究大会が3年ぶりに集合形態で開かれるなど、研修や講演会が昨年以上に参加しやすい形式で開催されたためと考えられる。

・R4年度からの新規項目「学校は、生徒の学ぶ意欲の喚起をめざして、授業や学校生活におけるVR/ARの活用方法を研究している」は89.5%であった。生徒と同じく、学校経営計画にて60%としていた目標を達成することができた。引き続き、研究を推し進めていって生徒へと還元していく。

・会社に入ってから他障がい種の人とのトラブルが起きるケースがある。他障がい種の人と交流して優しい言葉かけなども勉強するとよい。

・もめ事の一つとして社内で起きているのが男女間のトラブル。高校生の中に基本的な部分の指導が必要ではないか。

・会社に入ることがゴールではなく、そこから主任になるなどマネジメント業務が始まる。入社してからも成長し続けられる教育を考えていただければありがたい。

・工業テクノロジー科の実習設備について、必要なものを必要な所へぜひ整備していただきたい。物づくり・製造業は日本の産業を支えている。事務職では定着できなくても物づくりの現場で馴染む人もいる。学科で機械や学習に触れることがなければ、経験しないままになり、日本の物づくり分野に就く人が減ってしまう。

第2回学校運営協議会 令和4年6月2日 10:00~11:30

・社内研修をしても、理解力の差が大きい。文字情報システムに使われているような、大型のディスプレイによる指導が必要

・有給取得については、一般企業でも苦労している。まして、教員の方は業務が多様なので、取得率を上げるのは、なかなか難しいように感じる。

・休みの取り方や、給料の額面と手取りの違いなどを理解しておらず、支援センターから説明をしに行ったケースもあった。

・デジタル化は進んでいるが、リテラシーや読み書きにつながらない場合がある。モチベーションは高まるが、文章力がない。鉛筆で書くという方法も併用した方がよい。また、機械操作はうまいが、授業はうまくない先生も増えているので、発問の仕方や板書スキルなどもしっかり身につけてほしい。

・本を読みましようと言っても、なかなか読まないが、ビブリオバトルをすると結構盛り上がる。そうしたゲーム性を取り入れてすると、読書率も向上するかもしれない。

・協議会で議論するの時間が短い。意見が活発に出ているので、しっかり議論ができるよう時間を確保してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値] (生) 生徒向け学校教育自己診断肯定的評価 (保) 保護者向け学校教育自己診断肯定的評価 (教) 教員向け学校教育自己診断肯定的評価	自己評価
1 公 中 で 個 を 磨 く 教 育 の 推 進	(1) 「知・徳・体」 バランスのとれた 教育の推進	(1)	(1)	(1)
	ア 確実な知識・技能の 修得	ア・これまで積み重ねた成果を生かし未知の状況にも適切に対応できる「思考力・ 判断力・表現力等」の育成を教科指導、特別活動等を通じて図る。 ・文章力の向上のため朝ドリル(国語・計算・英単語等)の活用を図る。 ・生徒の自学自習を促進するため、図書室の学習環境をさらに整備し、読書への 興味・関心を高めるとともに放課後学習等を継続的に促進する。 ・各職業学科において、より専門的な技能を身に着けるため、学科に応じた資格 取得の奨励を一層促進する。	ア・(生) 授業・学習成績関連項目 92%以上 [91%] (保) 授業・ICT・学習評価関連項目 94%以上 [93%] ・(生) 朝ドリル活用関連項目 60%以上 [58%] ・(生) 図書室利用関連項目 55%以上 [50%] ・(生) 資格取得関連項目で 75%以上 [73%]	ア・(生) 授業・ 学習成績関 連項目 96% (○) (保) 授業・ ICT・学習評 価関連項目 90%(△) ・(生)朝ドリル 活用関連項 目 47%(△) ・(生)図書室利 用関連項目 52%(△) ・(生)資格取得 関連項目で 80%(○)
	イ 互いを思いやり、相 手の立場を尊重する生 徒の育成	イ・生徒の主体性を一層引き出すため、英語科及び生徒自治部を中心に、多文化 共生教育推進の観点から国際交流、高大連携、地域連携を実施する。 ・人権教育委員会・いじめ防止対策委員会及び国語科が中心となって、人権尊重 の教育を促進するため、人権作文等のコンクールを生徒に啓発し積極的な応 募を促す。 ・前年度の実施内容を踏まえ、本科、専攻科の各学年で状況に応じた「人権LHR」 を継続的・計画的に実施する。 ・人それぞれが互いに違いを認め合い尊重する心を養うため、健康安全部が中心 となり命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会を計画的・組織的に推進 する。	イ・国際交流を一層推進するため、T-NET を活用 した外部人材による講座を月2回程度、年間で 20回以上実施する。[20回]・英会話力及び英 語手話力の向上を図る。 ・「人権作文」コンクールに応募し、最優秀・優 秀賞受賞及び入選延べ3名以上の実績をめざ す。[最優秀及び優秀賞計2名] ・各学年単位で3回以上実施する。[各3回] ・(生) 性教育関連項目で88%以上 [88%]	イ・T-NET を活 用講座年間 20回実施。 (○) ・「人権作文」コ ンクール入 選4名(○) ・各学年単位で 3回実施 (○) ・(生)性教育関 連項目で 87%(△)
	ウ 生徒の健康の増進、 体力の向上	ウ・生徒自らが自身の健康・体力の増強について意識が高まるよう、新型コロナ 等の感染症対応、免疫力向上、心の健康、体育的行事についての指導を組織 的・継続的に行う。	ウ・(保) 健康管理関連項目で98%以上 [98%]	ウ・(保) 健康管 理関連項目 で100%(○)
(2) キャリア教育の 充実・発信	(2)	(2)	(2)	
ア 進路関係機関と適切 な連携により正確な情 報による進路実現	ア・進路指導部が中心となって、4月に職業適性検査、就職準備試験等を行い、 客観的で適切な進路指導を実践する。 ・進路指導部が主体となり、職場開拓を行うとともに、アフターケア・定着指導 の充実と企業等関係者とのネットワークを一層広げる。	ア・(生) 職業適性関連項目で86%以上 [84%] ・(教) アフターケア・定着指導等関連項目89% 以上 [88%]	ア・(生) 職業適 性関連項目 で87%(○) ・(教)アフター ケア・定着指 導等関連項 目91%(○)	
イ 生徒・保護者の進路 ニーズに応じたキャリ ア教育の推進	イ・各生徒が卒業後の具体的な将来像(目標)を描けるようにするため、「先輩の 体験を聞く会」、「公開進路報告会」を計画・実施する。 ・学年別職場見学会、職場体験実習、障がい者就職面接会見学(専攻科I年)、進 路説明会保護者懇談、デュアルシステム(事前・事後学習)、面接指導、大学 進学予定者講習会等を計画的に行う。	イ・(生) 進路関連項目88%以上 [88%]「先輩の 体験を聞く会」は2名以上の講師招聘し1回実 施、「公開進路報告会」は1回実施する。 ・(生)「希望する進路について丁寧に指導してい る」「進路に関する必要な情報を十分提供して いる」項目85%以上 [新規]	イ・(生) 進路関 連項目91% (○)「先輩の 体験を聞く 会」3名講師 を招聘し1 回実施(○)、 「公開進路 報告会」は1 回実施(○) ・(生)「希望す る進路につ いて丁寧に 指導してい る」「進路に 関する必要 な情報を十 分提供して いる」項目 87%(○)	

府立だいせん聴覚高等支援学校

2 学校・保護者・同窓会・地域が丸となった教育の推進	(1) 安全・安心な教育の推進 ア 感染症対策及び健康指導の徹底 イ 危機管理体制構築	(1) ア・健康安全部を中心に新型コロナ感染症対策を含め生徒の健康指導を組織的・計画的に行う。特に新型コロナ感染症禍において、手洗い等感染防止対策及び免疫力向上のための食事や運動のあり方について指導の徹底を図る。※<1-(1)ウ>と関連 イ・危機管理についての意識向上を図るため、11月に教員向け防災研修、4月と9月に生徒向け防災教育を実施する。	(1) ア・(生)健康・防災関連項目で91%以上 [90%] (教)同92%以上 [92%] ・防災LHRを年2回実施する。[年2回]	(1) ア・(生)健康・防災関連項目で96% (教)92% (○) ・防災LHRを年2回実施 (○)
	(2) 地域とつながる教育の推進 ア 青年期の課題啓発・改善 イ 手話の普及活動	(2) ア・地域やPTA・同窓会と連携した聴覚障がい者のための防災対応の整備・充実を図る。 ・生徒の災害ボランティア活動への参加促進を図る。 ・PTA並びに同窓会と共同して仁徳天皇陵清掃活動に参加し、地域とのネットワークを深化させる。 イ・研究部が中心となり「地域向け手話講座」を実施する。	(2) ア・災害ボランティア活動5人以上の実績をめざす。[5人]また、生徒のプレゼン力向上の為、校外で事後報告会を実施・PTAと連携して行う清掃活動を2回以上実施。[新型コロナ感染症で中止] イ・地域向け「手話講座」初級、中級の実施、計20回以上 [初級10回、中級10回、計20回] ・文化祭を利用して、手話歌等を披露してもらい地域の方との交流を一層深化する。	(2) ア・災害ボランティア活動7人 (○)文化祭で事後報告会を実施 (○)・PTAと連携して行う清掃活動新型コロナ感染症で中止 (△) イ・地域向け「手話講座」初級、中級を20回実施 (○) ・文化祭等での交流2回 (○)
	(3) 「聴覚障がい教育」のセンター的機能の充実 ア 地域支援や理解啓発活動充実 イ 広報活動の継続的な実施	(3) ア・地域連携支援室が中心となり、聴覚障がい教育の理解啓発を一層促進するため、公開研修を実施し、高等学校及び聴覚支援学校 (中高連携) 等とのネットワークを拡げる。 イ・地域支援コーディネーターが中心となり、地域中学校、特に難聴学級設置の中学校及び聴覚支援学校中学部に対し学校訪問やHP等を活用した広報活動を通じて聴覚障がい生徒の進路啓発を組織的・計画的に行う。 ・HPに校長ブログを作り、本校における学校生活の様子を中学生、中学部生に広く周知することで、志願者数増の一助とする	(3) ア・公開研修2回以上 [2回]、外部講師の研修3回以上 [3回]、聴覚障がい研修1回以上 [1回] イ・府内難聴学級を設置する中学校50%以上及び府立聴覚支援学校中学部3校への学校訪問等実施 [R3年度新型コロナ感染症対策で学校訪問中止] ・校長ブログ更新回数35回以上 [R3 0回]	(3) ア・公開研修3回実施 (○) 外部講師の研修3回実施 (○)、聴覚障がい研修1回実施 (○) イ・難聴学級設置を確認できた中学校24校中15校63%を訪問 (○) 府立聴覚支援学校中学部3校への学校訪問等実施 (○) [R3年度は新型コロナ感染症対策で学校訪問0] ・校長ブログ1月25日現在更新回数62回 (○)

府立だいせん聴覚高等支援学校

3 教職員の資質・能力・専門性向上と働き方改革	<p>(1) ICT 機器の活用スキル向上</p> <p>ア ICT スキル、情報モラル向上の促進</p> <p>イ VR・AR 教材開発発信（学校経営推進費活用事業）</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学力向上に向けたタブレット型端末と文字情報システム、アプリや電子黒板・プロジェクタ（ICT 機器）等を活用した授業を推進する。</p> <p>イ・GIGA 推進 PT 主体で、各教科における VR・AR 教材を活用した授業を推進するため高度な技能を有する教員の英知を結集すると共に、学校説明会等で保護者や見学者に活用事例を紹介する等、本校の PR に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生) ICT 関連項目で 92%以上 [92%]</p> <p>イ・(生)(教) VR・AR 活用関連 60%以上 [*新規] ・高度な技能を有する教員技術の VR 教材化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生) ICT 関連項目で 100%(◎)</p> <p>イ・(生)(教) VR・AR 活用関連 84%(◎) ・VR を活用した授業を実施 (○)</p>
	<p>(2) 授業力及び指導力育成の一層の充実</p> <p>ア 聴覚障がい教育の授業改善</p> <p>イ 外部人材活用</p>	<p>(2)</p> <p>ア・研究部と指導教諭が中心となり、初任研や 10 年研対象者等による研究授業、指導教諭の公開授業、事後の研究協議を実施する。併せて「授業アンケートの結果」を踏まえて授業力向上を推進する。</p> <p>イ・授業や生徒のニーズに適切に対応するため、定期的又は臨時に SC、SSW、臨床心理士、大学関係者、職業教育関係者等、外部人材の活用を促進する。 ・教員の資質向上のため、他府県等への講演、事例研究、先進校等への参加を促進する。 ・研究部が中心となり、初任者・新転任者等、聴覚障がい教育の経験の少ない教員を対象に外部講師活用を含めて教員向け手話講座を実施する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・(教) 授業関連項目 98%以上 [98%] 初任研、10 年研の対象者等による研究授業を各 1 回以上、指導教諭の公開授業 1 回以上実施 [初任研、10 年研対象者各 1 回、公開授業 1 回]</p> <p>イ・(教) 外部人材活用関連項目 79%以上 [79%] ・(教) 外部研修関連項目 67%以上 [66%] ・(教) 手話関連項目で肯定的評価 93%以上 [92%] 教員向け手話講座回数 14 回以上 [13 回]</p>	<p>(2)</p> <p>ア・(教) 授業関連項目 97% (△) 初任研、10 年研対象者による研究授業、指導教諭の公開授業を各 1 回実施 (○)</p> <p>イ・(教) 外部人材活用関連項目 84% (○) ・(教) 外部研修関連項目 77% (○) ・(教) 手話関連項目で肯定的評価 91% (△) 教員向け手話講座回数 20 回実施 (○)</p>
	<p>(3) 働き方改革の一層の促進</p> <p>ア 校務の効率化と働きやすい環境</p> <p>イ 時間外勤務縮減</p>	<p>(3)</p> <p>ア・業務内容の見直しと簡素化を促進するとともに、業務の偏りを改善し、教職員が働きやすい環境を構築する。 ・課題対策 PT により想定外の事象にも迅速・適切に対応できる組織体制を構築する。</p> <p>イ・時間外勤務を縮減し、教職員の健康増進を一層促進する。</p>	<p>(3)</p> <p>ア・(教) 職場環境関連項目 84%以上 [83%] 会議資料の事前配付、各会議時間原則 30 分以内目標 ・課題対策 PT（課題内容に即した名称 PT、例えば生徒減少対策 PT 等）によって、諸課題に対し迅速・適切に解決する。または具体的な方向性を示す。</p> <p>イ・全教職員の時間外勤務月 80 時間未満</p>	<p>(3)</p> <p>ア・(教) 職場環境関連項目 80%(△) 会議資料の事前配付、の他ペーパーレスを試行 (○) 各会議時間原則 30 分以内は困難で 50 分近くかかった。(△) ・課題対策 PT 生徒減少対策に取り組む、本科 1 年生の志願者数が前年度の 1.5 倍 (○)</p> <p>イ・時間外勤務月 80 時間以上なし (○)</p>